
一人称、二人称、三人称。

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人称、二人称、三人称。

【Nコード】

N0198V

【作者名】

まめ太

【あらすじ】

自主的なおさらいとか。

一人称、二人称、三人称、とは、なんぞや？

小説を書く時の書き方というか、なんというか、そんな感じ。

某chでも話題になって、色々調べてみたりして、でも結局よく解からんシロモノですな。

一人称と三人称の違いは辛うじて解かる。「わたしがー」、「俺がー」、「そんでアイツがー」と延々と『俺から見た事件簿』状態が続くのが一人称。

そして、「一郎が」、「次郎が」、「そして三郎が」、「誰も彼もが主人公になりうるのが三人称。

では、二人称は？

これがよく解からん。

「諸君！ 聞いてくれたまえ、諸君！」と読者まで引つ張り込んで語りだすのが二人称らしい。らしい、という程度なので、やっぱりなんだか解からないからご容赦願いたい。「君が」という形で読者を巻き込む典型と言えば、昔に流行ったゲームブック方式だろうか。「モンスターが出た。君の行動は？」みたいな形で、読者も登場人物の一人となって進む話術があつたんだ。デジタルゲームの発達と共に消えてしまったけれど。

今では殆ど見ることはない。

一人称といえは、オーソドックスに「俺はー」、「あたしがー」と言うのが一般的だが、ちょっとした小手先の技を使う場合にはとても有効だ。自作『電気豚の餌』で使ってるが、主人公の名前も容姿も出さない、という方法。ストーリーが主である場合に、際立つ主人公は物語や世界の添え物なので、容姿は必要ないのですな。いや、主人公の語る「電気豚」の方が、この場合は主人公になる。だから、読んだ時の感覚が奇妙なものになるので、使いようで面白い読後感を与えられますな。

で、重要なのは、この場合はそういうカラクリに値する部分は読者に理解してもらわんでもいい、という点ですか。ちょっと小説を書いて文法のなんの知ってる人だと、なんで主人公の容姿が出てこない、だのと思うかも知れんけど、読者が気付かなきゃ問題ないですよ。目線が豚の方へ向けばいい。主人公の視点から見せるという事は、究極で主人公は目だけでいいという事です。目から見える世界や豚に集中してもらおう。つまり、主人公と読者が同化していれば、わざわざ主人公を作る必要などない、という事です。むしろ邪魔。……作者のそういう試みが成功してるかどうかはまた別問題ですが。

この方法は、短編だけの手法でしような、長編でやるのは危険すぎる。

さて、このエッセイ、途中で違和感が出てきてませんか？ 気付いてますか？

はい、語尾が「だ、ぞ、」から「です、ます、」に変わってるから、オカシクなってるですよ。（笑）

三人称は登場人物のA君とBさん、それプラス作者の視点を足して三人、という感じです。視点をコロコロ変えられるのが利点ですが、巧くやらないと違和感満載になります。

さつき、です・ますにわざと変えたけど、気付かない人は気付いてないはずでして、つまり、気付かれなきゃいい、という事ですよ、ええ。作者視点からA君視点は気付かれないように、そこからまた気付かれないように作者視点へ戻し、Bさんへ。そこで、A君の思考なり台詞であることと、Bさんの思考・台詞であることがしつかり読者へ伝われば、三人称になっています。

つまり、この場合の主な視点は「作者」。作者はA君でもありBさんでもありますが、しかしA君ではなく、Bさんでもない。作者であり、作者ではない。

それが難しいとされる「神視点」ね。神の位置が主視点なので、

誰かの視点に入る事は少ないです。

ほとんど、登場人物の中に入らず描写してる作品はなかったかな、と考えてみたら、『オシリス神話群』が、それに近いような気がしました。誰かが思っている心理描写というのが一行ずつくらいです。行動描写と台詞と、驚いたただの悲しんだだの、表面的な心理描写に留まります。

多く、三人称と銘打つ作品は三人称の形態だけほとんど一人称という感じですよ。講座なんかではそれで十分みたいな書き方がされてますが、騙されちゃいけませんぜ、旦那。一人称が基礎の基礎で一番簡単な書き方なのだから、その延長でしかない三人称ほぼ一人視点なんてのは、作品選考での技術点の足しにもなりやしない。書いて当然、の扱い。

では、その弊害を考えてみましょう。

一人称だと、主人公の視点でしか物が見えないのは当然として、主人公の頭のレベルでしか主張が出来ないというネックがあります。要所要所の説明もね。だから、探偵物などは頭のいい主人公にしないと謎解きが出来ないし、高校生が謎解きとかすると、「天才」を使わざるをえなくなり、その展開は使い古されて陳腐と評価されま

す。

逆で考えてください、難解な心理描写とかをしないといけないのに未熟な中高生を使ってしまったんで、描写が出来なくなり仕方なく「天才」にした、という作成の流れがモロ解かりだという事です。

あくまで普通の中高生を使うと、推理役の別人を使ったりして謎解きをしないとイケない。けれど、その人は主役じゃないんで心理面に立ち入る事が出来ないという制約が付いてきて、描写の難易度が非常に高くなります。犯人の動機とか、殺される人の心情もすべてパスするか、高度なテクを使うかして消化することになります。

(でも、読むほうはそっちのが面白いでしょうがね)

それは、そのままあらゆるジャンルにも言える事です。

一人称では、主人公「しか」書けない、という事です。人間ドラマとかは途端に難しくなります。登場人物の内面を深く掘り下げることをしなければ、なかなか気付けませんが、そういう事なんです。事件そのものが非常に複雑であるとか、人間関係が複雑であるとか、社会背景まで視野に入れてるとか、そのような場合は一人称では書ききれません。

映画になりました、GANZ、あれを一人称で小説化は非常に難しい。映画版名探偵コナン、これも非常に難しい、進撃の巨人も難しい、と、そういう事です。ちよつと難解なテーマを扱うと、一人称では極端に表現が難しくなります。そういうのは、三人称でない、です。

三人称一人視点でスライドさせていく技術を使わねば、書けないです。しかも、例えばデス・ノートなんかだと、心理戦を描写する時は、これはもう一番難しいとされる「神視点」でしか書けないんじゃないかと思えます。章ごと、ページごとに人称を切り替えるなんて手は通じない展開なので。

誰にも入らないタイプの神視点と、全員に入つてなお違和感を与えない神視点があり、後者でなければ原作が台無しになる、と、そういう気がします。

デスノなんかは、小説化は出来ないんじゃないかとすら思えますね……一人称じゃ無理でしょう。

つまり、一人称で書ける物語は底が浅いということですよ。平たく言うならね。浅くないものを、一人称で書こうとすると、主人公の理解度が高い必要と内面に入らずに他人の複雑な心境を描写する技術が必要になります。

ところで、主人公は平凡な中高生がいい、というのはなぜでしょう？

平凡な中高生とは、なんら特筆すべき点のない人生を歩み、人生

そのものがまだまだ短く事件らしき事件にも遭遇していない子供、という意味です。これは、上記であげました、名前も容姿も書かれることがない主人公と同等です。つまり、常識的な視点でストーリーを語るナレーションでしかない、という事。

ハルヒのきよんがそうですね。口調が少し特徴あるだけで、色はないので多くの読者が感情移入しやすいのです。どんな過去を持つ読者でも彼に同調が出来るでしょう。

それが、「平凡」の売りですよ。テンプレ主人公というのも、同様の利点と欠点があります。テンプレという批評をされた時は、利点が生かせていない、という意味だと思いますね。ステレオタイプね。

主人公には二種類があります。

一般常識人タイプのナレーション型と、非凡個性派タイプのヒーロー型。前者は述べたので、後者。

ヒーロー型は、文字通り読者が憧憬の眼差しでもって見る主人公です。この場合、同調とか感情移入は狙いません。憧れられる人格と行動をもって、追っかけになってもらうわけです。この場合の読者は主人公のファンとか追っかけになります。だから、ファンになるような魅力的な人物を作らないといけません。

ナレーション型とヒーロー型は一致させるのはとても難しいので、どっちかにした方が無難です。目の覚めるような活躍をするヒーローと自分を一致させる事が出来る読者なんて、どれだけ居るか、という事です。こうなりたい、だとかの憧れでファンになって目で追うというのと、共感出来るナレーション役の平凡な主人公では、おのずと感情移入の仕方が違うという事です。

ナレーション型は、その目を通して見るストーリーや人物が面白いという事が重要になります。

ヒーロー型は、三人称の主視点が読者となり、時々ヒーローと重なるような、彼の心理が解かるという特典めいた同調がキモになり、

主人公そのものが重要になります。そして、主人公 読者です。

わたしなんぞはそう理解したもんですが、色々な講義コーナーと
か読むと、人によりけりで解釈が違う場合もあり、結局のところ、
はつきり「こう」と決まったルールなどない、という事のようにです。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0198v/>

一人称、二人称、三人称。

2011年7月20日03時29分発行